

明石市

国際協力海外レポート

濱田 昌大（はまだ まさひろ）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イフガオ州ラガウエ町
職種：コミュニティ開発
赴任期間：2015年7月～2017年10月（予定）



○ICESDCI 設立

私が約2年前にフィリピンで活動をはじめた目的の一つに、発展途上国で国際 NGO を設立させることができました。2016年7月に、配属先のイフガオ州政府、文化遺産事務所の元同僚と一緒に、イフガオ州の州都ラガウエ町に国際 NGO、Ifugao Cultural Educational Scientific and Community Development Center, Incorporated (ICESDCI) を設立しました。当初、私は日本で法人格を取得し、NPO 法人として発展途上国でソーシャルビジネスを展開させたいとおもっていましたが、イフガオ州で良き仲間にも巡り会うことができ、フィリピンで NGO の法人格を取得し、活動を始めることができました。

ICESDCI での私の役割はファイナンシャルスーパーバイザーで、ICESDCI で実施される各プロジェクトの資金管理を中心に行っています。日本に帰国後は、クラウドファンディング等により、社会起業家や社会投資家、篤志家などにも働きかけ資金調達したいと考えています。

○ICESDCI での活動

現在は、小型水力発電所の運営サポート（青年海外協力隊の派遣要請）や棚田保全基金の各プロジェクトのモニタリングに加えて、ICESDCI の各プロジェクトにも関わっています。

ICESDCI で実施されているプロジェクトとしては、イフガオ族の伝統的なダンスやドラ、歌などの記録・保存活動、それらの伝統的な音楽を次世代に伝えるための教育活動の実施、イフガオ州の代表的景観である棚田群や棚田の石垣、茅葺き屋根の伝統家屋の保存や継承活動、植林活動（緑化活動）、大学などの教育機関と連携して実施する学術調査などがあります。

また、2017年7月12日から14日に、ベンゲット州バギオ市で開催される国際会議「International Conference on Cordillera Studies Indigenous Studies in the Philippine: Issues and Prospects」（フィリピン大学バギオ校主催）に ICESDCI のスタッフと一緒に参加し、ICESDCI の活動を発表します。ICESDCI の活動が、ラガウエ町のバンハラン村でも実施されていることから、バンハラン村を取り囲む石垣の補修や金沢大学と文化遺産事務所が連携して実施した学生インターシップなど、以前の配属先の文化遺産事務所がバンハラン村で実施してきた活動についても発表する予定です。

○Moma の植林

2017年7月からは、植林活動（緑化活動）の一環として、ラガウエ町の幹線道路沿いに、Momaを植林します。Momaの実は、イフガオ州の伝統的な木で、ビターナッツと呼ばれています。乾燥させたMomaの実とタバコの葉、そして石灰を口の含み噛むことでタバコに似た効用を得られることから、イフガオ州では「噛みタバコ」として、人々に親しまれています。イフガオ州は、ルソン島北部の山岳地帯に位置し、乾季は気温が10度以下になるところもあり、涼しいを通り越して寒いこともあります。Momaの実を噛むことによって、化学反応で体が温かくなるので、現地の人たちに愛好されています。

○茅葺き屋根

イフガオ州の景観の特徴である棚田群は、世界的にも保存活動が実施されています。実際に、イフガオ州の5つの棚田群も、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産に登録されており、世界から大きく注目され、様々な機関や個人の支援を受けています。しかしながら、棚田の保存が優先され、その他の茅葺き屋根の伝統家屋や棚田そのものの生業（稲作）といった分野の保存活動や継承活動は、後回しになっています。かつて、イフガオ州では、茅葺き屋根の伝統家屋を住居スペース兼刈り取った稲の保管場所として利用してきました。現在では、稲の保管場所としてのみ活用することが多く、私が2年間の活動を通じて、実際に茅葺き屋根の伝統家屋に住んでいる住民と会ったのは、わずか数人しかいません。

IGESDCIでは、茅葺き屋根の伝統家屋の保存や継承にも注力したいと考え、ラガウエ町の幹線道路沿いに大きな土地を取得し、敷地内にイフガオ族の茅葺き屋根の伝統家屋を建設しています。（写真1、2、3を参照）



写真1 急ピッチで建設中の茅葺き屋根の伝統家屋



写真2 茅葺き屋根の伝統家屋の内部の様子
(写真1に掲載された伝統家屋(左)の内部)



写真3 バナウエ町バダッド村の伝統家屋
地域によってデザインや意匠などが異なる

建設した家屋を世界中からやって来る観光客の宿泊施設として開放し、観光客からの収入(宿泊料)の一部を、既存の茅葺き屋根の伝統家屋の修復や新たに建設するための資金に充当したいと考えています。年内に約10棟の茅葺き屋根の伝統家屋を完成させ、そのうちの1棟は、ICESDCIの新事務所として移転する予定です。

国際NGOの現地駐在員(日本人職員)と話してよく話題になりますが、発展途上国で2年間も生活すると、その地域のことについては、日本人の中では自分が1番知っている、思っています。しかしながら、実際は2年滞在したくらいでは、その地域のことを真に理解で

きたとは言えません。NGO の駐在員曰く、5 年間現地で活動してやっと地域のことが分かり始め、10 年活動して、本当の意味で地域のことを良く理解できるようになるそうです。

私はさまざまな「活動」を通じて、地域住民と交流し、地域への理解をより深めたいと思っていますが、活動をする上で、ICESDCI で実施するソーシャルビジネスのように、地域社会に何らかの良い影響を与えることはもちろん、地域への負のインパクトを小さくすることも重要だと考えています。